

2018年度 行事部主催 施設見学研修会 報告

—京都医療少年院—

2018年8月7日（月）14：00～15：30

1. はじめに

今年度の行事部主催の施設見学研修会では、京都府宇治市にある「京都医療少年院」を訪れました。研修等で医療少年院の取り組みを聞き興味をもっておられる先生方から、宮川医療少年院の見学会と同様、今年度も多くの申し込みがありました。普段はなかなか見学する機会がない医療少年院で、施設の方から貴重なお話を聞かせていただき、施設を見学させていただきました。プライバシー等の制約があるため写真を掲載することはできませんが、1時間半の研修会で学んだことを報告します。

2. 時程 2018年8月7日（月）14：00～15：30

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 13：30 | 参加者集合、受付 |
| 14：00 | 見学 |
| | 1) 施設概要説明 2) 施設見学 3) 質疑応答 |
| 15：30 | 解散 |

3. 京都医療少年院について

(1) 京都医療少年院とは

全国に4ヶ所ある医療少年院のうちの一つで、西日本における少年院の医療センター的な役割を持つ少年（男子及び女子）を収容する矯正施設である。24時間体制での医療や看護など充実した医療体制で疾病などの治療を行うとともに、非行に関わる態度や行動上の問題の改善を図り、心身ともに健康な若者を育成するための矯正教育を実施する法務省所轄の国立の施設である。

(2) 対象者

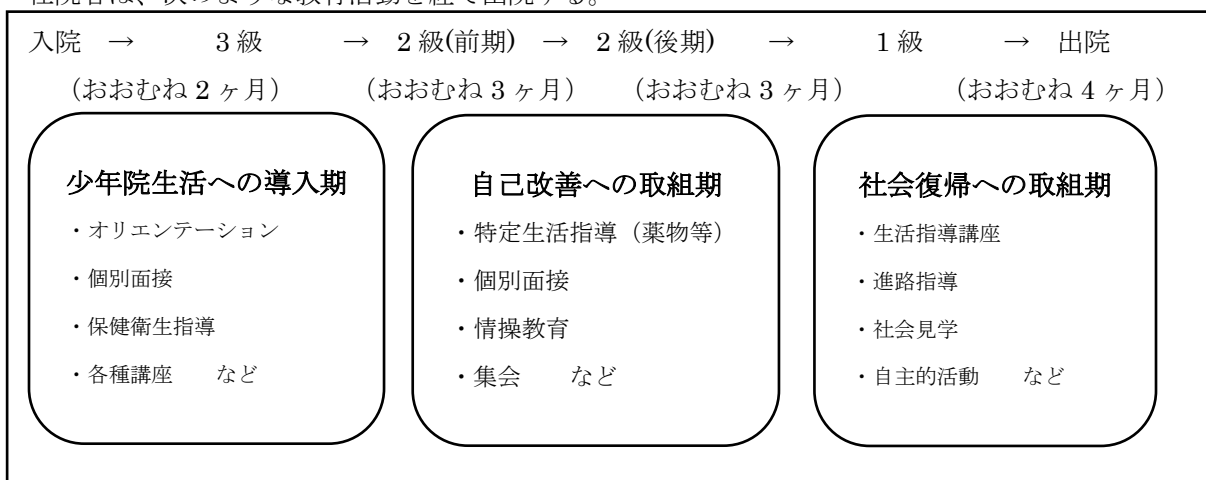
主に西日本の家庭裁判所において第三種少年院送致の決定を受けた少年及び少年院在院中に専門的治療が必要になった少年を収容している。

(3) 特徴

- ① 矯正教育と医療措置を必要とする少年を収容
- ② 地域的な広がり
- ③ 西日本における少年院の医療センターとしての役割
- ④ 身体疾患、身体障がい、精神疾患または精神障害を有する14歳から20歳をこえる多種多様な少年が混在

(4) 教育の内容

在院者は、次のような教育活動を経て出院する。



(5) 一日の生活 (平日)

| | |
|-------|-----------------------|
| 7:00 | 起床・点呼 |
| 7:30 | 朝食・余暇時間・身辺整理 |
| 8:55 | 朝礼 診察・午前日課 (職業指導等) |
| 12:00 | 昼食・余暇時間 |
| 13:00 | 午後日課 (体育指導・情操的活動等)・入浴 |
| 17:00 | 夕食・余暇時間 |
| 17:55 | 日記・集会・夜間回診 |
| 19:10 | 補習学習・余暇時間 |
| 21:00 | 就寝 |

生活指導・・・社会の一員として自立した生活を営むための基礎となる知識及び生活態度を習得させる指導を行う。

特定生活指導・・・特定の課題を抱える在院者に対し、その改善に向けたプログラムを実施する。

職業指導・・・社会生活に適応するために、勤労習慣、忍耐力、マナー等を身につけさせるとともに、各種資格の取得に必要な訓練を行う。

教科指導・・・義務教育や社会生活に必要な基礎学力を身につけさせる指導を行う。

体育指導・・・各種スポーツ、ダンスなどを通じて、健全な身体の発達を促し、運動能力や健康で安全な生活を営む能力を育成することを目的とした指導をする。また、日常生活に必要な体力や技能を高めることのみならず、順法の精神や協調性を育む指導をする。

特別活動指導・・・各種行事、社会貢献、地域の方々との交流を通じて、社会性や自主性の涵養を図る。

社会復帰支援・・・就労・就学支援。出院後の生活を安定させるため、ハローワークと連携して、職業紹介、求人情報の提供など就職活動を支援する。帰住調整、家庭、保護観察所や福祉機関等と連携を取りながら、スムーズに社会生活につなげられるような支援を行う。

(6) 感想

- ・少年院における少年の状況や保護者の受け入れ状況がよく分かりました。貧困が子どもたちに与える状況に改めて驚きを感じました。
- ・職員の方々が愛情を持って大切に指導し、社会復帰へと応援・支援されていることが伝わりました。
- ・幅広い教養を身に付けることができる場所だと思いました。(生け花、陶芸等驚きました)このことを通してコミュニケーション能力を身につけ、自立し、人とかかわりを大切にできる人に育ててほしいと思いました。ここに来て、やっと安心できる場所ができたと感じる子どもに対し、とても複雑な気持ちになりました。
- ・少年院の先生方の思いも私たちも同じであった。少年院でお世話になることのないように幼児期からの取組みの大切さを改めて思い起こしているところです。
- ・お話の内容は、学校における個別の支援と通じるところがありました。また、非行の背景から生い立ちを想像するあたりも教育であると感じました。
- ・なかなか見学させていただくことのできない施設の様子や院生の方々の作品を見せていただいて、よい経験になりました。保護者講習会の内容も大変具体的でわかりやすく、保護者の方がすぐに実践できるような内容で、とても参考になりました。お話の端々に入院中の子どもたちに対する職員の方々の温かい想いが感じられ、この想いに支えられ、子どもたちが立ち直っていけるのだと感じました。
- ・「スモールステップの小さな成功がとても嬉しい」というお話が心に響きました。学校でも少年院でもその子の成長のお手伝いをするという点では同じだと思います。二次障害を起こさないよう学校の責任は大きいと思いました。
- ・「画一的な対応は逆効果ともなる。その子の認知の仕方にあった指導をしている。」という説明があり、納得しました。素晴らしいと思います。「二次障害」についてもとてもわかりやすかったです。スモールステップで取組み、少しずつ変わっていくのが嬉しいとおっしゃっていたところにもとても共感しました。
- ・以前、市の職員として勤めていた頃、他市に在住していた少年が入院中に転居してきて、状況や課題がわからず、出院後に苦労しました。社会復帰の難しさを改めて実感しました。
- ・施設見学、全国少年院等の内容等は興味深かったです。配付された資料もとても興味深く読ませていただきました。職員様の少年たちに対する想い、対応等の話がとてもよくしみこみました。

(7) おわりに

施設見学では、廊下に飾られた俳句や工芸品などみることができました。工芸品などは粘土に触れて情緒を安定させることを目的としているそうです。工芸においては向き不向きもなく、少年たちを褒めることのできるものだと伺いました。見学会後半には、入院者の保護者対象の講習会の内容を教えてくださいました。教員として、問題行動を叱るばかりではなく、好ましい行動を褒めていき、信頼関係を築くことが大切であると知ることができました。子どもたちがこういった施設に入る前に子どもたちの抱える問題に気づき接していくことの大切さを改めて感じることでできる機会となりました。

以上、今年度の行事部主催施設見学研修会の報告とさせていただきます。京都医療少年院の方々、当日はお忙しい中、大支研施設見学会のためにお時間を割いていただきありがとうございました。末尾ながらお礼申し上げます。